



『梶原景時館址と寒川町一之宮』

2022. 7. 8

岡見みどり 記

7月8日（金）晴天。寒川駅で集合、解散し、参加者は40名でした。

今夏は梅雨明けが早く、炎暑が懸念され、当初の『梶原景時館址と一之宮・田端宿』の距離を短縮し、一之宮宿の探訪となりました。参加された皆様、暑い中お疲れさまでした。

探訪ルートは、寒川駅から南泉寺、一之宮八幡大神、日野屋付近、松戸橋跡、花川用水、伝七士の墓、梶原景時館址、寒川町文化財学習センター（一之宮小学校内）、八角広場（旧国鉄西寒川支線西寒川駅跡）、一之宮不動堂（河原不動）、一之宮公園、車地藏堂、寒川駅着で約5キロほどでしょうか、一之宮公園の緑陰に癒やされました。

一之宮はJR相模線寒川駅南口に位置し、寒川神社の一の鳥居とは相模線で分かれています。相模国一之宮に由来する地名です。田村大山道と中原道が通過する交通の要衝であり、大山詣で賑わいました。相模川に渡る手前の一之宮不動堂に、江戸の人達が寄進したという不動三尊像や道標があり、道標には「右大山 左江戸」と刻まれていました（右写真）。大山の夏例祭中の賑わいは別格で、大山詣の帰路には、江の島や鎌倉へ立ち寄ることが定番だったようです。



「相模国準四国八十八ヶ所巡り」の第83番の南泉寺、一之宮各町内所有の屋台が8月の大祭宵宮に巡行する一之宮八幡大神、近江国日野から進出し財をなした入沢家の立派な門構えなどを巡りましたが、一之宮の大山道の史跡の一番は、もちろん探訪タイトルの梶原景時館址でしょう。

鎌倉を追われた梶原景時は子息らを連れ、正治元年（1199）12月に一之宮の館に下向しますが、翌1月、一之宮を脱出して西に向かいます。清見関（静岡市清水区）で在地の武士と交戦となり激戦の末、落命。大山道に面する天満宮周辺が梶原景時の館があったと伝わっています（下写真）。天満宮は、かつては3メートルの土塁状の地形でした。低湿地の砂丘崖に面した要害の地形で堀の存在から、平成13年に学術調査がされていますが、中近



世の溝や堀などは確認されたものの、直接梶原景時につながる遺構は確認されていません。近くには、景時の館の外堀という松戸橋跡、景時親子が亡くなってから、館の留守居役が主君を弔ったとか、奥方を守って信州に隠れていた家臣7人が梶原氏の復権を願ったが許されず、その場で自害したとも伝わる伝七士の墓があります。

一之宮小学校には、寒川町文化財学習センターがあります。1階に埋蔵文化財の土器や古墳のレプリカ、2階には寒川町ボランティア作成の町内の街道地図、大山祭礼中の写

真などが展示されています。町教育委員会教育政策課職員や寒川町ボランティアの方に来ていただき、直接説明をお聞きしました。探訪の最後は、供車にのった地藏尊を祀っている田端宿の生行寺持の車地藏堂に寄って、帰路につきました。